

渭北地区の人口・世帯数(2026.6.1 現在)
人口：14,746人
[男7,089人・女7,657人]
世帯数：7,393世帯

■ 渭北コミセン tel. 088-652-7476・088-622-0805

ihoku



吉野川南岸河口にある「すみよし干潟」

吉野川南岸の河口付近（しらすぎ大橋付近）のすみよし干潟には珍しい生き物をたくさん見ることが出来ます。「こんな身近なところにシオマネキが!!!」と感動すること間違いなしです。

潮が引いて干潟が現れると歩道からすぐ近くの泥の間からシオマネキやハゼが出てきます。8月ごろにはシオマネキのことも（通称「青ガニ」）も観察できてそのきれいに目を奪われます。また、この河口付近は渡り鳥たちが旅する姿を観察できる全国的に有名なスポットです。オソリハシギやダイゼンというイメージができる方は少ないかもわかり

観察できる生き物たち

潮が引いて干潟が現れると歩道からすぐ近くの泥の間からシオマネキやハゼが出てきます。8月ごろにはシオマネキのことも（通称「青ガニ」）も観察できてそのきれいに目を奪われます。また、この河口付近は渡り鳥たちが旅する姿を観察できる全国的に有名なスポットです。オソリハシギやダイゼンというイメージができる方は少ないかもわかり



ヨシガモの雌雄



ホウロクシギ



ツクシガモ



ミヤコドリ

ラムサール条約は1971年2月2日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された「湿地」に関する

ラムサール条約

ラムサール条約は1971年2月2日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された「湿地」に関する



湿地との関わり

湿地は、生き物の楽園であるだけでなく私たちの生活に密接にかかわっています。日本では各地にあるそこから得られる恵みを活用して湿地と共生する営みを続けてきました。様々な生き物たちが複雑に関わりあって生存している自然環境こそが私たちに必要なのです。



ただし、何といっても干潟ですから干潮時間帯を見計らって行ってください。くれぐれも、子供たちだけでは危険なので保護者の同伴も忘れないでください。



シオマネキ（アオガニ）



鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいますが、採択の地にちなみ、「一般に「ラムサール条約」と呼ばれています。日本国内では52か所の湿地が「ラムサール条約湿地」として登録されていますが、残念ながら四国ではまだ例をみません。しかし、私たち渭北地区の身近にあるすみよし干潟は上記のように登録の条件を満たしており、あとは地域の盛り上がりや後押しするだけの状況です。皆様のご協力をいただきたいのですが、まずは「すみよし干潟」を実際にご覧になってください。